

昔から島の外と行き来があった喜界島

今から400～1200年の昔、喜界島の眺めのいい高台に、大きな集落がありました。



この集落に暮らしていた人が残した土の中から出てくる物を調べると、いろいろなことが分かります。

焼き物のほとんどは、島外（遠くは中国や朝鮮半島）から持ち込まれたものでした。その中には、当時の役所でしか見つからない焼き物もあり、この集落が喜界島周辺の島々の中で中心的な役割を果たしていたのではないかと想像できます。

米や小麦、大麦も見つかっていて、この集落の人々は、畑でこれらの作物を育てていたのかもしれませんが。

お墓からは、当時の方のお骨が見つかります。

骨からは、その方が日本本土地域の人々と顔が似ていることや、海の魚を食べていたことが分かります。

ところで、昔の方のお骨が見つかることは、実はめずらしいことです。というのも、骨は一見固く丈夫そうに見えますが、長い年月がたつとボロボロになって溶けてしまうからです。

どうして喜界島では骨が見つかるのでしょうか？このことは、喜界島がサンゴ礁でできた島であることと関係しています。サンゴからできた土は、骨を溶けにくくする性質をもっています。そのため、この集落の土に作られたお墓のお骨も形を残すことができたものと思われる。